



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル・パレスチナ：オバマ大統領のイスラエル・パレスチナ訪問

米国のオバマ大統領は、3月20日からイスラエルとパレスチナを訪問する予定である。現在までの報道では、3月20日にイスラエルを、21日にパレスチナを訪問し、22日午後にはイスラエルを離れる。オバマ大統領の大統領としてのイスラエル訪問は初めてである。同大統領は、国会ではなくエルサレム市内のホールで演説を行うようだ。同大統領は、21日に西岸のラーマッラーを訪問してアッバース大統領と会談する。米国の大統領としては、ブッシュ前大統領が2008年1月に初めてラーマッラーを訪問している。オバマ大統領は、22日にベツレヘムの生誕教会を訪問するが、ブッシュ前大統領同様に、旧東エルサレム市内の嘆きの壁や聖墳墓教会は訪問しないようである。オバマ大統領は、今回の中東歴訪では、サウジ、トルコ、ヨルダンを訪問する予定である。

オバマ大統領は、14日、イスラエルのテレビと会見し、今回の訪問では聞き役に回ると述べている。報道では、米国は、パレスチナ側にも同様の趣旨を伝えたようだ。ニューヨーク・タイムズ紙のコラムニスト、トーマス・フリードマンは、13日のコラム「オバマ氏、イスラエルへ行く」の中で、米国にとっての中東和平問題は、すでに「趣味」の問題になっており、オバマ大統領は、今回は旅行者としてイスラエルを訪問するとした。同記者は、米国がやることは、イスラエルに、中東和平について長期的な計画があるか尋ねることぐらいであると、かなり辛らつな表現で、中東和平の現状を表現している。イスラエルを訪問したオバマ大統領が、聞き役に徹する場合、その意味は、中東和平というゲームのボールはイスラエル側にあり、イスラエルが何もしなければ何も動かず、米国も動かないということである。そして、それはイスラエルの責任であり、米国の責任ではないとの無言の圧力になるだろう。

(中島主席研究員)